

施策名：地域の元気を創造する取り組み

事業名	担当課・局・室名	ページ
地域活性化総合補助金	観光・地域局集落応援室	2 / 2

事業名	地域活性化総合補助金	事業期間	平成 18 年度～平成 26 年度	上位の施策名	地域の元気を創造する取り組み
				担当課・局・室名	観光・地域局 集落応援室

[目的、現状・課題]

目的	対象	旧町村部や過疎地域などの様々な主体	現状・課題	旧町村部や過疎地域などの元気・活力を維持・向上させるため、地域資源に磨きをかけ地域の独自の魅力をアップする取組が求められている。
	意図	地域活性化に向けた取り組みを支援する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	22年度	23年度	24年度	25(予算)
活性化チャレンジ枠	地域資源の活用等により地域活性化に向けた事業を実施するために予め行われる調査研究や試行等を支援(17件)	直接補助	個人、団体、法人	総コスト	526,570	489,487	599,849	623,000
地域活動支援枠	地域の様々な主体が行う地域活性化の取組を支援(101件)	直接補助	個人、団体、法人、市町村	事業費	405,570	364,487	476,849	500,000
				うち一般財源	405,570	364,487	476,849	500,000
地域の元気創造枠	旧町村部への雇用の増大等「波及効果」をもたらす「持続可能」な取組を、計画作りから定着まで支援(新規1件)	直接補助	個人、団体、法人	うち繰越額				
地域磨き枠	地域での先進的・独創的なアイデアを市町村と協働しながら県が自ら実践(12件)	委託	県	人件費	121,000	125,000	123,000	123,000
				職員数(人)	12.10	12.50	12.30	12.30

「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	地域活性化に向けた様々な取組を支援するとともに、旧町村部の不安や懸念にきめ細かく対応した。特に元気創造枠では旧町村部の活力向上につながる取組の立ち上げを支援し、新たな雇用の創出や地元からの原材料の調達などの経済波及効果をもたらした。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
			新規事業採択数(地域磨き枠を除く)(件)	79	119	90	26		
成果指標	指標名(単位)	達成度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終達成(26年度)	評価	備考
	新たな雇用創出(累計人数)	目標値	264	270	280	290	300	概ね達成	
		実績値	239	268	270				
		達成率	90.5%	99.3%	96.4%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	旧町村部の住民に不安や懸念が強いことを背景に、旧町村部対策の柱として実施している。市町村合併を推進してきた県の立場から、新市の一体性が確立されるまでの過渡期の支援として取り組んでおり、県による実施が必要である。なお、事業開始から5年経過した時点で見直しも行った。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	<ul style="list-style-type: none"> 活性化チャレンジ枠及び地域活動支援枠について、柔軟に対応出来るよう特認制度を創設 旧町村部緊急支援枠の廃止 旧町村部活力創造枠から地域の元気創造枠へ名称変更し対象を過疎地域まで拡大 	22年度	24年度	総コスト / 成果指標の実績値
			2,203千円/人	2,222千円/人	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	補助制度と直接実施の双方の活用により地域活性化に向けた取組への支援ができるようになったため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 個人、各種団体、法人等への補助制度(活性化チャレンジ枠・地域活動支援枠・地域の元気創造枠)に加え、地域ニーズに機動的に対応できるように県が実施主体となる制度(地域磨き枠)を整備 研修や事業の検証等により、最小のコストで最大の効果が得られるよう取組を推進 25年度は、新たに策定するツーリズム戦略の実効性を高めるため、各振興局毎に地域磨き施策を組み立て、事業化に向け検討 		